

はじめに

阿武隈川上流全域で甚大な被害を被った「昭和 61 年 8 月 5 日洪水」から、今年で 30 年となります。

その後も阿武隈川流域では、平成 10 年、平成 14 年、平成 23 年と度重なる洪水に見舞われており、その都度、治水施設の整備を行っておりますが、まだまだ十分とは言えません。

また、昭和 61 年当時の水害経験者の高齢化や水害を経験していない世代もあり、洪水の恐ろしさが薄れてゆく傾向にあります。

このような背景の中、過去の洪水の記録を風化させず、後世に語り継ぐことが大切であり、かつ、地域住民の防災意識の向上が必要と感じられます。

過去の洪水被害の状況や最近の行政の取り組みを幅広く一般の方々に紹介することで、過去の洪水から水害の恐ろしさを知り・学び、そして地域と一体となって考えていただくため、本巡回展を開催いたします。

**大規模水害に対し「逃がす・防ぐ・取り戻す」を合い言葉に
様々な取り組みを進めます。**

阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会



国土交通省東北地方整備局
福島河川国道事務所

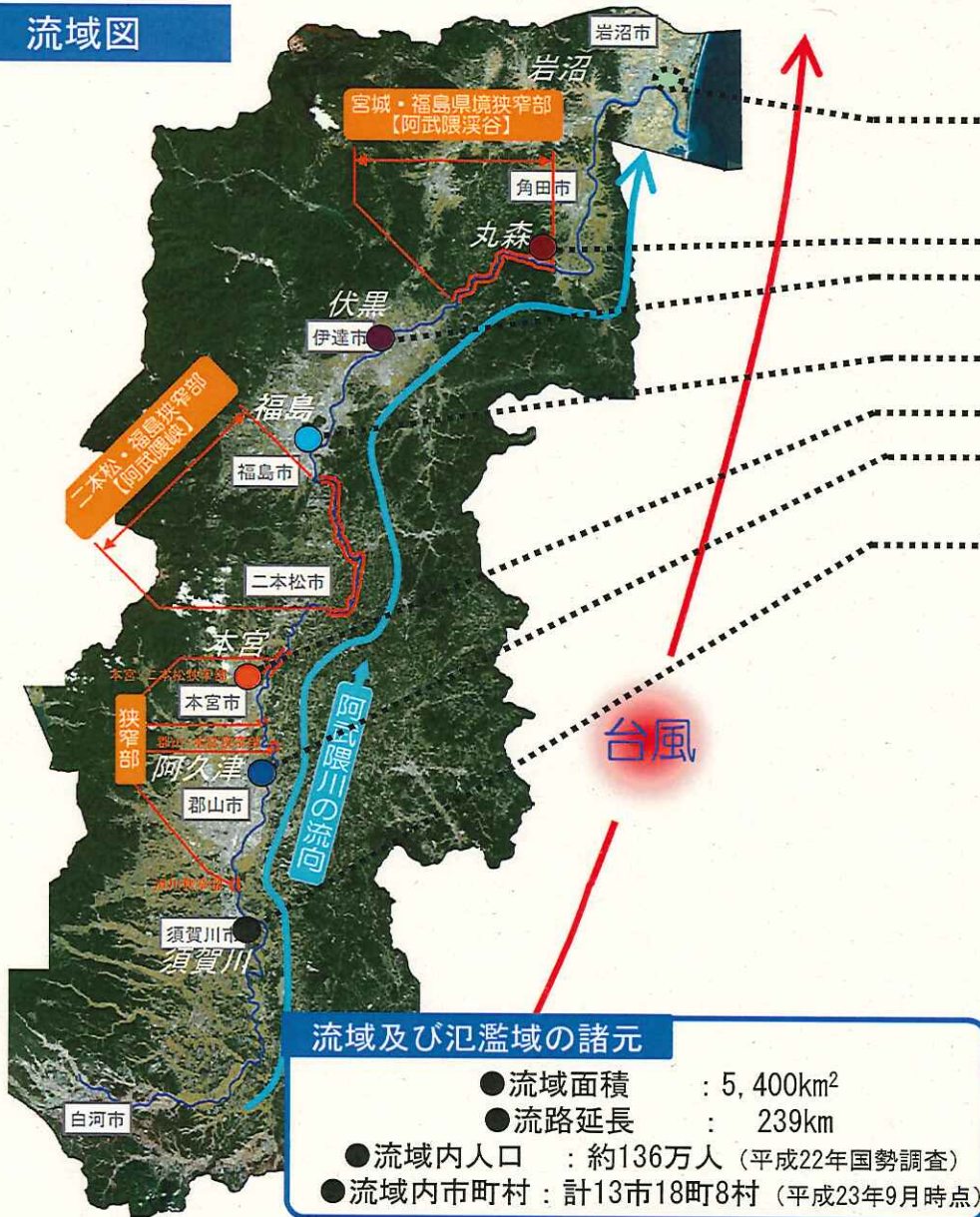
※阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会は、昨年の関東・東北豪雨被害の教訓を踏まえ、阿武隈川で発生しうる大規模水害に備えるため、流域の国・県・市町村(6市2町2村)で構成される協議会として設立されました。

協力 一般社団法人 東北地域づくり協会

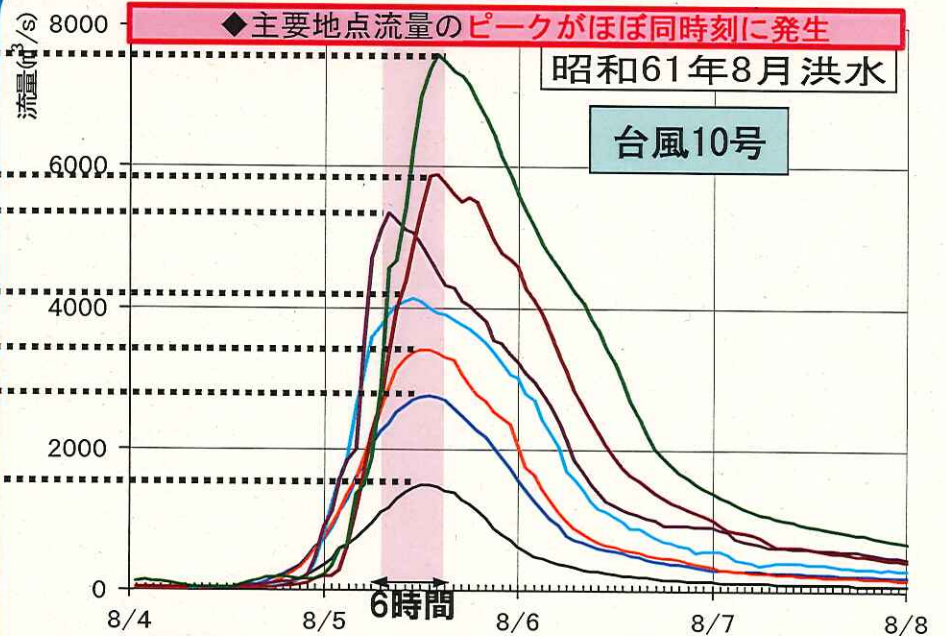
阿武隈川の特徴(地形特性)

▶ 狭窄部によって水の流が妨げられ、狭窄部上流の盆地で水位上昇しやすく洪水被害を受けやすい。

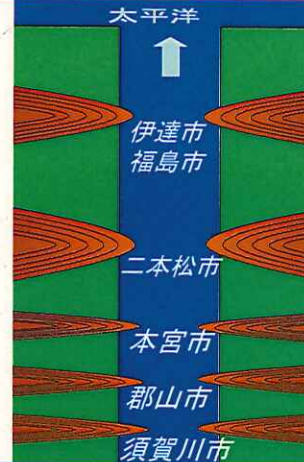
流域図



阿武隈川の地形・流域特性



◆ 盆地と狭窄部が交互に存在

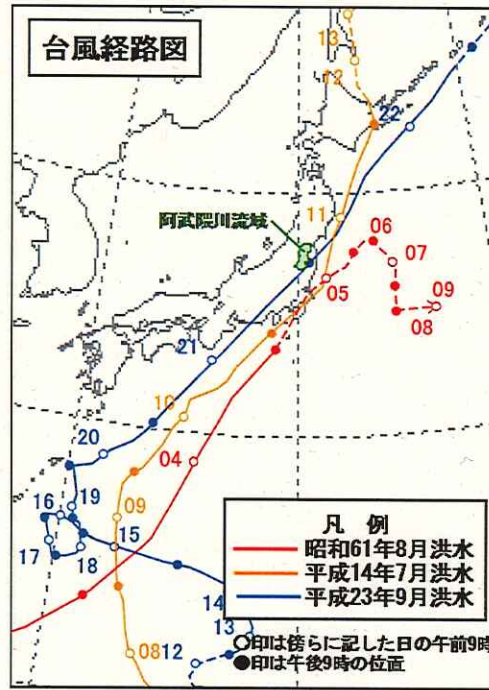
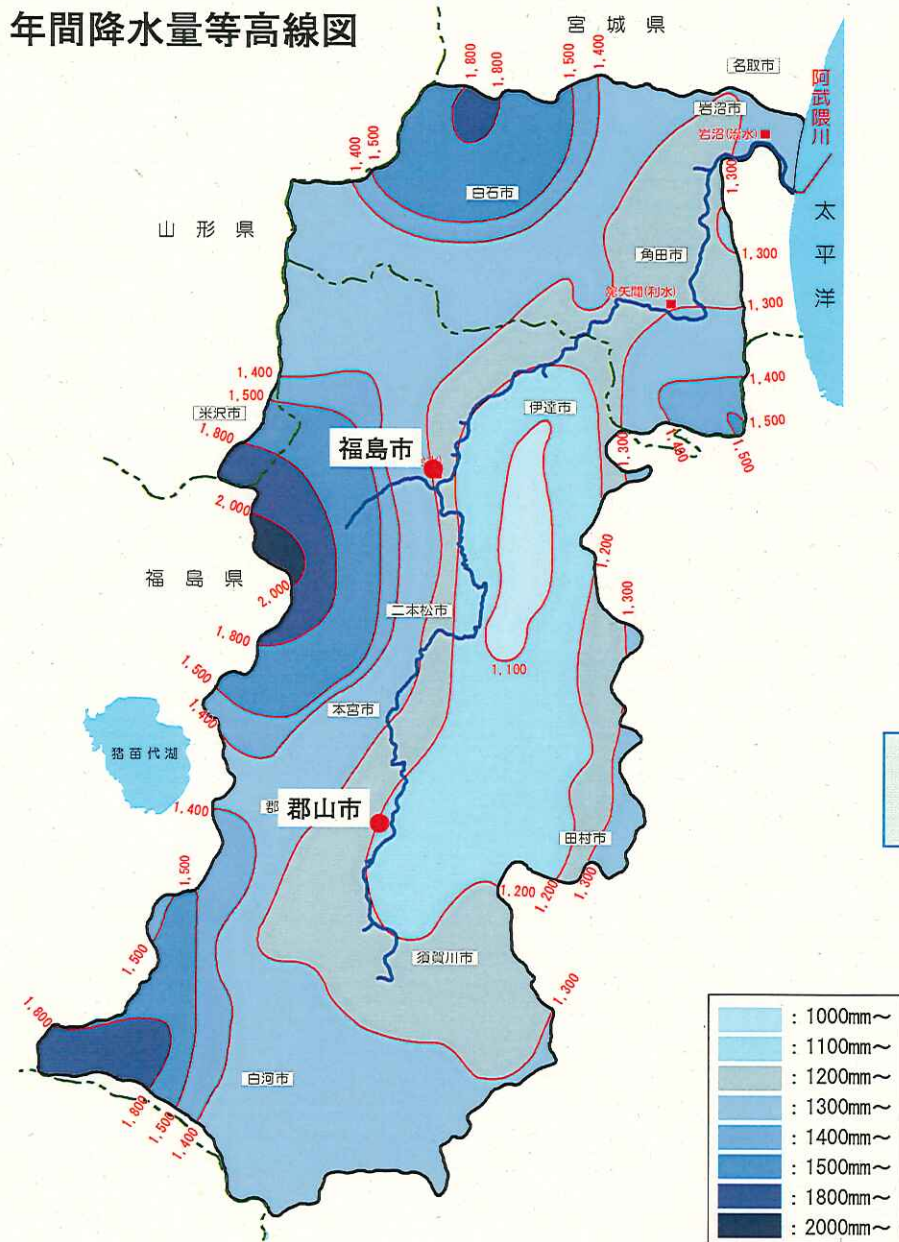


◆ 阿武隈溪谷



阿武隈川の特徴(降雨特性)

年間降水量等高線図



阿武隈川の水量 上流<中流<下流 へと増える
 そこに台風に伴う豪雨が 上流→中流→下流 へとプラスされ、洪水に

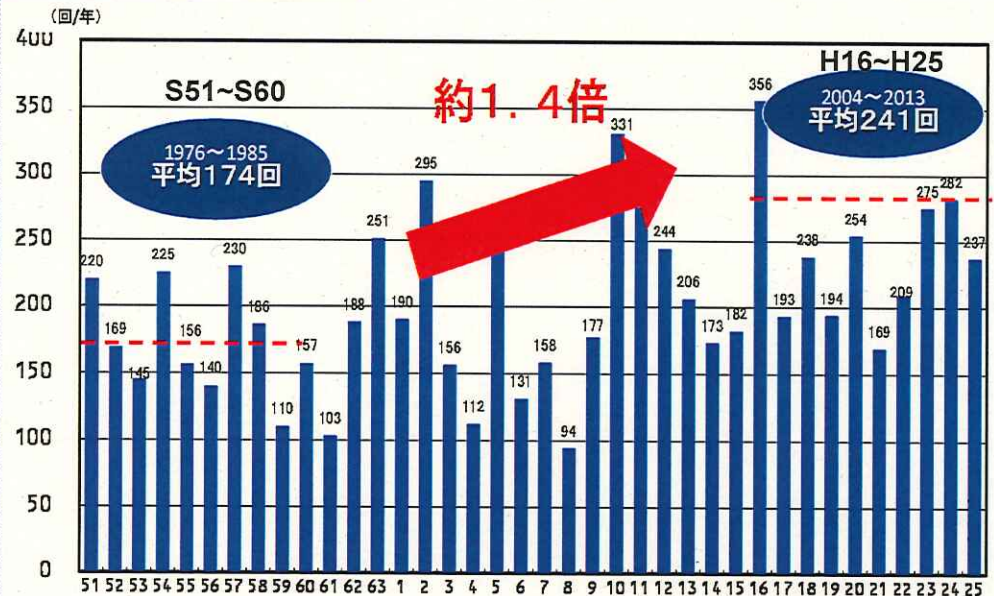
- 阿武隈川流域の年平均降水量は、奥羽山脈側で約1,500mm、阿武隈山地側で約1,200mm。
- 阿武隈川の流域・流路は南北方向になっているため、台風の進路と一致しやすい傾向により、主要洪水はほとんどが台風起因する。

最近の雨の降りかたは、異常

局地的豪雨や線状降水帯で高まる水害リスク

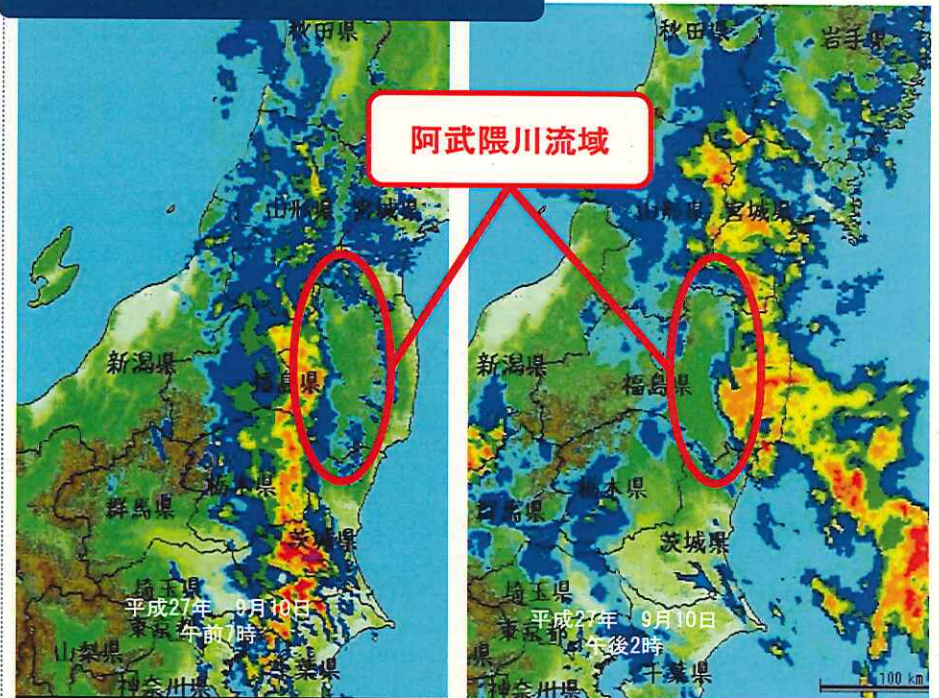
- ▶ 平成27年9月関東・東北豪雨では、阿武隈川では大きな被害は発生しなかったものの、仮に線状降水帯の雨雲が、阿武隈川流域に位置した場合には大規模な被害が発生した可能性も考えられます。
- ▶ 近年の雨の局地化・集中化・激甚化を踏まえ、今後もハード・ソフト一体的となった対策を進めるため、「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき流域一帯で取組む予定です。

増大する外力



1時間に50mmを超える激しい雨の件数が30年前の約1.4倍にもなり、今後さらに十分な備えが必要になっています。

もし、雨域がずれていたら...



▲関東・東北豪雨での線状降水帯

阿武隈川における過去の洪水被害①

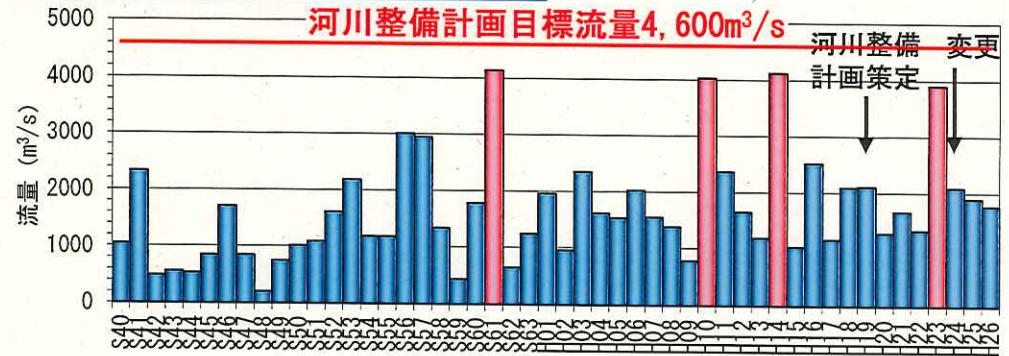
- ▶ 戦後最大の出水を記録した昭和61年8月台風による洪水では甚大な被害(S61洪水から今年で30年が経過)
- ▶ 近年においても、平成10年8月洪水、平成14年7月洪水、平成23年9月洪水により浸水被害が発生

洪水の発生状況

洪水発生年	流域平均 2日雨量		実績流量 (m ³ /s) (水位 (m))		被害状況
	福島	岩沼	福島	岩沼	
昭和13年 9月 1日 (台風)	169.5	164.5	3,320	4,430	床下浸水 2,918戸 全半壊 79戸 死者負傷者 25人 ※1
昭和16年 7月23日 (台風8号)	240.6	228.0	4,310	5,450	床下浸水16,582戸 全半壊208戸 死者負傷者 69人 ※1
昭和22年 9月15日 (カスリン台風)	181.3	170.6	1,880	3,400	床上床下浸水合計 33,470戸 全半壊209戸 死者負傷者 38人 ※1
昭和23年 9月17日 (アイオン台風と低気圧)	178.0	181.0	3,780	4,450	床下浸水24,558戸 全半壊737戸 死者負傷者 95人 ※1
昭和25年 8月 4日 (台風11号)	126.0	149.2	1,670	3,170	床下浸水17,097戸 全半壊686戸 死者負傷者115人 ※1
昭和33年 9月19日 (台風21号)	—	157.0	—	(6.72m)	床下浸水29,233戸 全半壊 707戸 死者負傷者 68人 ※1
昭和33年 9月27日 (台風22号)	143.1	156.7	2,140	4,730	床下浸水 1戸 全半壊 1戸 死者負傷者 1人 ※2
昭和41年 6月29日 (台風4号)	148.2	138.7	2,340	3,660	床下浸水 1戸 全半壊 338戸 死者負傷者 1人 ※2
昭和41年 9月25日 (台風26号とその温帯低気圧)	141.1	130.1	2,200	3,580	床上浸水 1,935戸 死者負傷者 1人 ※2
昭和46年 9月 1日 (台風23号)	136.6	154.6	1,710	2,920	床下浸水 357戸 全半壊 1戸 死者負傷者 1人 ※2
昭和56年 8月23日 (台風15号)	166.7	164.0	3,010	3,910	床上浸水 37戸 死者負傷者 1人 ※2
昭和57年 9月13日 (台風18号)	131.4	140.6	2,950	5,730	床下浸水 176戸 全半壊 1戸 死者負傷者 1人 ※2
昭和61年 8月 5日 (台風10号とその温帯低気圧)	233.5	248.2	4,140	7,590	床下浸水 4,204戸 全半壊 23戸 死者負傷者 1人 ※2
平成元年 8月 7日 (台風13号)	127.2	160.9	1,960	5,240	床上浸水 675戸 全半壊 16戸 死者負傷者 1人 ※2
平成 3年 9月19日 (台風18号)	136.1	126.3	2,350	3,170	床下浸水 668戸 全半壊 1戸 死者負傷者 1人 ※2
平成10年 8月30日 (停滞前線と台風4号)	215.8	189.5	3,990	5,400	床上浸水 273戸 全半壊 69戸 死者負傷者 20人 ※2
平成14年 7月11日 (台風6号)	220.9	220.6	4,120	6,690	床下浸水 1,713戸 全半壊 1戸 死者負傷者 1人 ※2
平成23年 9月20日 (台風15号)	218.4	214.6	3,760	4,500	床上浸水 886戸 全半壊 1戸 死者負傷者 1人 ※3

出典：※1.東北に影響を及ぼした台風、※2.水害統計、※3.洪水後の調査より整理

福島基準地点の年最大流量



昭和61年8月洪水の被害状況



家屋の浸水被害が発生した (伊達市)



谷田川合流点の浸水状況 (郡山市)

平成10年8月洪水の被害状況



河岸崩壊の拡大を防ぐシート張り (福島市)

平成14年7月洪水の被害状況



水位の上昇に不安を浮かべる住民 (本宮町)

阿武隈川における過去の洪水被害②

- ▶ 明治43年や大正2年洪水で甚大な被害が発生。これらの洪水を契機に大正8年、**国直轄で河川改修に着手**。
- ▶ 昭和33年9月や昭和41年6月洪水等による被害や流域内の開発状況等を考慮し、昭和49年に**工事实施基本計画を策定**。
- ▶ **昭和61年8月に戦後最大規模の洪水発生**、平成10年8月、平成14年7月と立て続けに大規模洪水が発生。
- ▶ 河川法の改正により、平成16年1月に**河川整備基本方針策定**。平成19年3月に**河川整備計画策定**。
- ▶ 平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波により河口部を中心に甚大な被害が発生するとともに、広域的な地盤沈下が発生。このため、河川整備基本方針と河川整備計画を**平成24年11月に変更**。



大正2年8月洪水の被害状況

家屋の浸水被害が発生した
(福島県本宮市)



昭和16年7月洪水の被害状況

岩沼実績流量: 5,450m³/s
福島実績流量: 4,310m³/s

家屋の浸水被害が発生した
(福島県本宮市)



昭和33年9月洪水の被害状況

岩沼実績流量: 4,730m³/s
福島実績流量: 2,140m³/s

(宮城県丸森町)



昭和41年9月洪水の被害状況

岩沼実績流量: 3,580m³/s
福島実績流量: 2,200m³/s

国道115号が浸水した
(福島県福島市)



昭和61年8月洪水の被害状況

浸水面積: 14,630ha
岩沼実績流量: 7,590m³/s
福島実績流量: 4,140m³/s

家屋の浸水被害が発生した
(宮城県岩沼市)



平成10年8月洪水の被害状況

浸水面積: 1,846ha
・外水: 1,227ha
・内水: 619ha

岩沼実績流量: 5,400m³/s
福島実績流量: 3,990m³/s

河岸崩壊の拡大を防ぐシート張り
(福島県福島市)



平成14年7月洪水の被害状況

浸水面積: 959ha
・外水: 472ha
・内水: 487ha

岩沼実績流量: 6,690m³/s
福島実績流量: 4,120m³/s

水位の上昇に不安を浮かべる住民
(福島県本宮市)



平成23年3月東北地方太平洋沖地震

阿武隈川の左右岸に位置する岩沼市及び亶理町では、死者・行方不明者61名。全壊・半壊の建物被害は、両市の全世帯数の2割程度

津波によって崩壊した堤防
(阿武隈川右岸0.1k付近: 亶理町荒浜地先)



平成23年9月洪水の被害状況

浸水面積: 1,210ha
・外水: 589ha
・内水: 621ha

岩沼実績流量: 4,500m³/s
福島実績流量: 3,760m³/s

家屋及び農地浸水被害が発生した
(福島県郡山市)

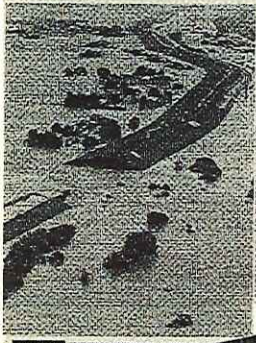
計画高水流量5,800m³/s(福島) 9,200m³/s(岩沼)

昭和61年8月5日洪水の状況

- 阿武隈川において、戦後最大の洪水。流域全体で甚大な被害が発生
- 福島県全域で死傷者11名、浸水戸数14,113戸、全壊 13戸、半壊 43戸
- 被害総額は、約1,067億万円

出典：S61.8.20 17時時点 福島県災害対策本部資料

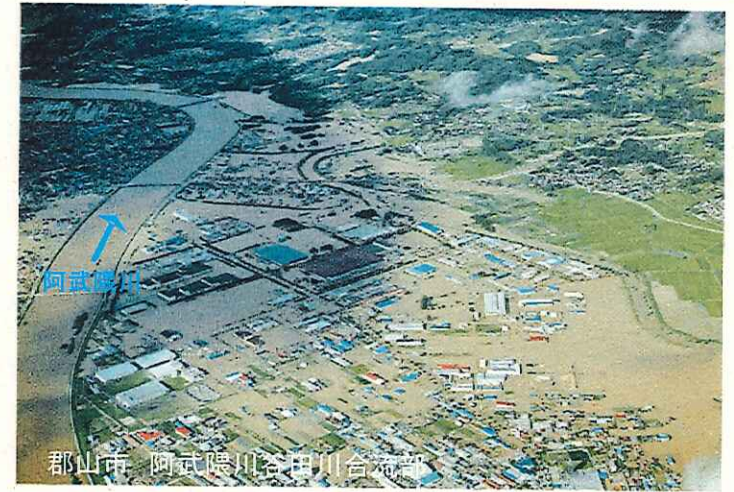
東日本 記録破りの豪雨



仙台402ミリ、相馬312ミリ
宮城・福島6人死ぬ
土砂崩れ、河川はん

仙台402ミリ、相馬312ミリ
宮城・福島6人死ぬ
土砂崩れ、河川はん

S61.8.6



濁流、荒れ狂う

早朝の住宅街急襲
不気味な水音通りまどう住民



土砂崩れ、河川はん

全国で死者12人
▲福島3河(夕刊) S61.8.7

S61.8.7

ハード対策の取り組み(洪水と戦う治水施設)①

i) 激特事業や平成の大改修などによる再度災害防止対策

- ・ 昭和61年洪水で被害を受けた広瀬川では再度災害防止を目的とした激特事業を実施しました。

ii) 阿武隈川河川整備計画に基づく予防的治水対策

- ・ その後も、平成10年洪水において、約3,659戸の浸水、死傷者20名の被害が発生したことを受け、「平成の大改修」と命名し、無堤部の築堤や浜尾遊水地の整備等を重点的に実施しました。
- ・ 現在も、平成19年に策定された河川整備計画に基づき、策定から概ね30年後にS61.8洪水と同規模の洪水に対して床上浸水被害の防止を目標に、築堤や遊水地等の予防的治水対策を進めています。

現在、実施中の事業

➢ H10年洪水を契機に事業着手



▲浜尾遊水地(須賀川市)

➢ 平成14年洪水の様子

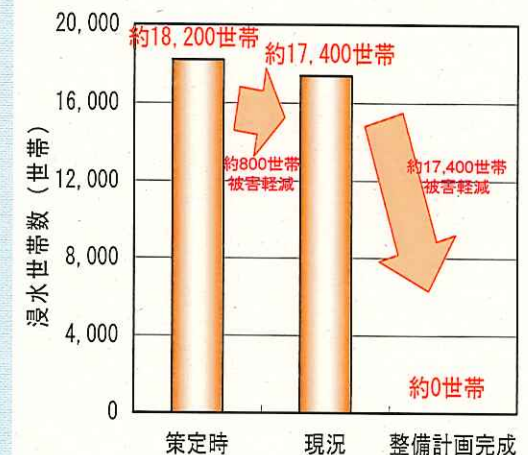


▲本宮地区築堤(本宮市)

➢ 平成26年 堤防完成(一部)



事業実施による効果



▲河川整備計画前後の浸水世帯数

ハード対策の取り組み(洪水と戦う治水施設)②

1. 五十沢地区(伊達市(旧梁川町))



整備効果等

・約800mの堤防整備をすることにより、伊達市五十沢地区の浸水被害を解消。

2. 本宮地区



整備効果等

・約1,500mの堤防整備をすることにより、本宮右岸地区の浸水被害を解消。ショッピングセンターの進出や市街地化が進む。

3. 郡山地区(愛宕川排水機場)



整備効果等

・毎秒6.0m³の排水機場を整備することにより、郡山市久保田地区の内水被害の軽減を図る。

4 須賀川地区(釈迦堂川合流点)



整備効果等

・左右岸で約2,000mの堤防整備をすることにより、須賀川市江持地区等の浸水被害を解消。

ソフト対策の取り組み（河川の巡視・点検等）

- 洪水時の被害軽減のため、関連機関と連携し、水防活動への支援強化、訓練等を通じ、災害に備えています。
- 水防団等と河川管理者間で、「河川水位状況」や「資機材の保有状況」等の情報共有を進める必要がある。

重要水防箇所等の合同点検

毎年出水期前に、関係機関等と合同で、重要水防箇所の巡視や水防備蓄資材の点検を実施しながら意見交換を行い、災害の発生に備えています。



合同点検の状況



水防資材の備蓄状況の点検

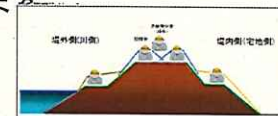


土のう袋やシート等の備蓄材

職員による徒歩の堤防点検

大雨による洪水に備え、職員による徒歩の堤防点検を実施しています。

徒歩による堤防点検のイメージ(1班:5名で編成)



徒歩による堤防点検状況

洪水予報・水防連絡会

水害の防止、軽減を図るため、水害に関する連絡・調整を関係機関と行い、連携を強化しています。



総会の状況（平成27年4月）

洪水対応演習の実施

出水時に備え、阿武隈川流域の沿江市町村、県、防災エキスパート、国などが参加し、洪水が発生した際の情報伝達訓練を行っています。



洪水対応演習の状況（平成27年5月）

災害に備えた水防訓練の実施

洪水災害が起きた際には、円滑な水防活動が出来るよう、日常から洪水時の役割の確認や水防工法訓練を実施しています。



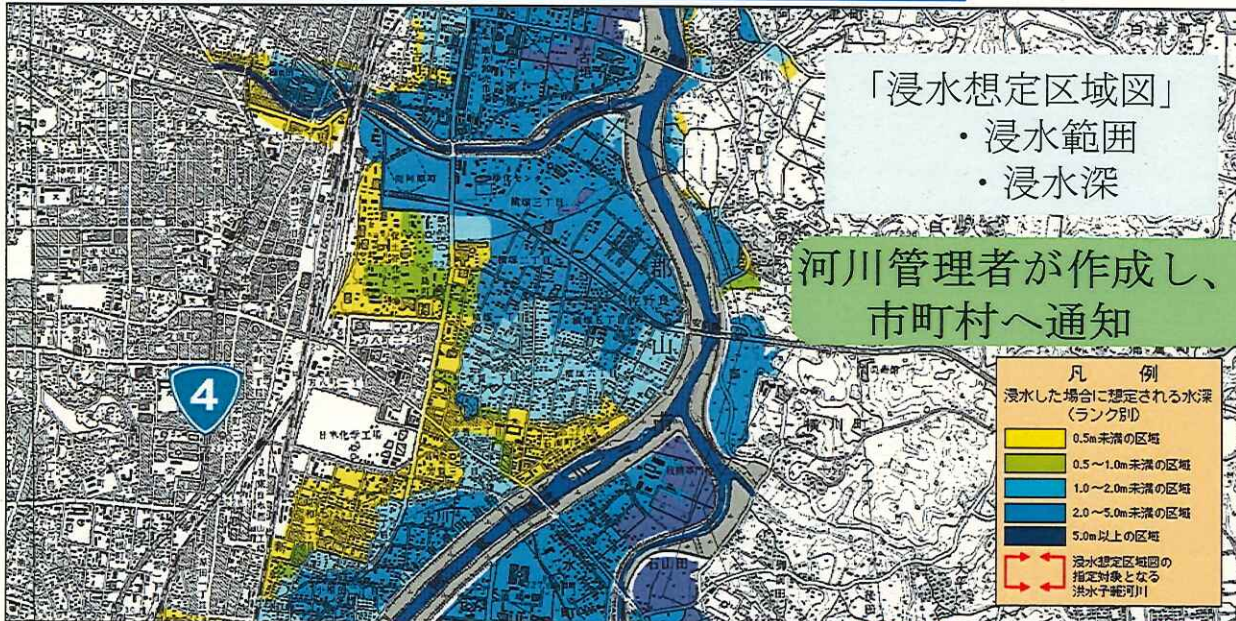
水防技術講習会の状況

ソフト対策の取り組み(洪水ハザードマップ)

○阿武隈川等で堤防が決壊した際の氾濫状況を時間を継続して変化させ、シミュレーションした結果を福島河川国道事務所ホームページにて公表しています。

浸水想定区域図(阿武隈川):平成14年4月30日公表

<http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/sinsui/index.htm>



シミュレーション条件
 ・降雨条件:2日で257mmの雨量
 ・浸水条件:各はん濫ブロックで堤防決壊により、浸水範囲が最大となる区域を示したもの

洪水ハザードマップ(市町村作成)



【流域のハザードマップ策定状況】
 福島市(H24)、郡山市(H25)、須賀川市(H20)、二本松市(H20)、伊達市(H25)、本宮市(H23)、桑折町(H27)、国見町(H17)、玉川村(H18)
 ※括弧内の年次は最新の更新年

最近の取り組み(住民等への情報伝達方法)

▶ 河川水位、洪水予報、ライブ映像等の情報を事務所ホームページやテレビ等を通じて伝達しています。

TVによる情報提供

「地デジ」による河川防災情報の提供
河川の水位・雨量がご家庭のテレビで確認できます。

とっても簡単!!

操作手順



① NHK総合にあわせ、リモコンの「dボタン」を押します。

※「dボタン」の位置は、テレビのメーカーによって異なります。



② NHKトップから「防災・生活情報」を選びます。



③ メニューの「河川水位・雨量」を選びます。



地デジによる提供 (NHK)

地デジTVでの確認方法

河川情報表示版による情報提供

須賀川市 未来大橋右岸(2面)設置 (H27.7出水時表示)



管内9箇所の河川情報表示板

＜整備地区:計9箇所＞

- 福島市(2箇所)
- 二本松市(1箇所)
- 本宮市(3箇所)
- 郡山市(2箇所)
- 須賀川市(1箇所)

沿川箇所(福島市・信夫橋右岸)



平時の河川愛護等啓発情報

事務所ホームページによる情報提供

阿武隈川周辺に数十箇所設置されている観測用ライブカメラからの現地映像がリアルタイムで見られます。

「道路ライブカメラ(国道19号 福島市)」、「道路情報板」、「気象情報」、「利用情報」はこちら

● 全体地図 ● モーザック表示 ● 拡大地図 ● 地図上のボタンをクリックして、各観測所の詳細画面が表示されます。

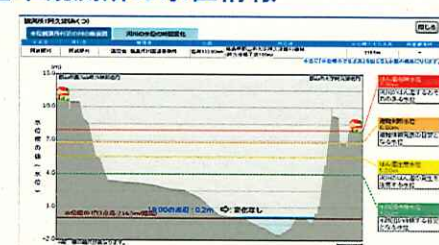


福島河国事務所HP

◆ 基準観測所のライブカメラ映像



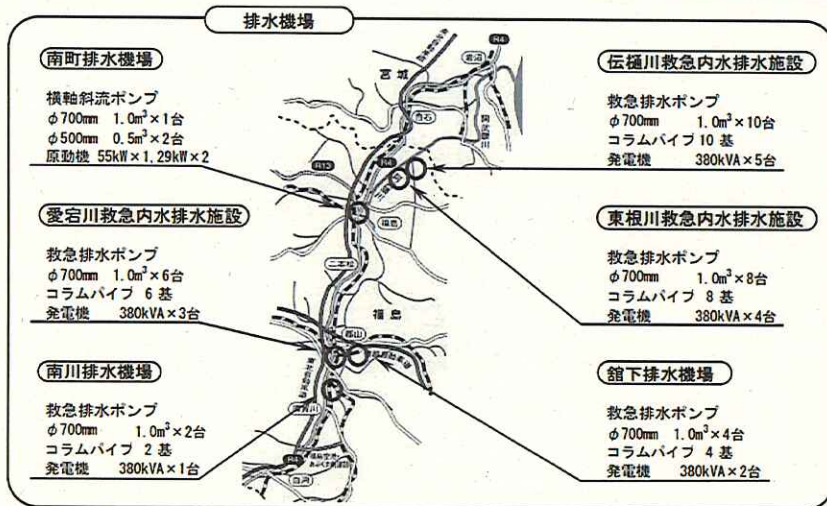
◆ 基準観測所の水位情報



臨機な対応の取り組み(災害対策用機械等)

▶ 排水ポンプ車や照明車等の災害対策用機会は平常時から保守点検を行うとともに、機械を扱う職員等の訓練を行うなど、非常時における出動態勢を常に確保しています。

管内 排水設備・災害対策用機械



排水ポンプ車

150m ³ /min 1台 (水中P式. 30m ³ /min×5台) 11-4246	60m ³ /min 2台 (水中P式. 30m ³ /min×2台) 10-4261 10-4262【広域】	30m ³ /min 2台 (水中P式. 6m ³ /min×5台) 10-4253 10-4254
45m ³ /min 1台 (90-ラ式) A-C1001【広域】	30m ³ /min 1台 (水中P式. 7.5m ³ /min×4台) 23-4254	

衛星通信車

ヘリテレ付 1台 A-C1401

土のう造成機

定置式 360袋/h 1台 17-4283

排水ポンプ装置

30m ³ /min (水中P式)	8台
------------------------------	----

照明車

20kVA (2kW×6灯)	3台
11-4280 21-4283	
11-4287	

対策本部車

拡幅型	1台
18-4280	

待機支援車

バス型	1台
18-4281	



※災害に迅速な設置及び機械の正常な稼働を確認することもあわせ、訓練を実施している。

排水ポンプ車 (30m³/分)

～ プールの水を10分でカラにできる! ～

排水ポンプ車は、豪雨による河川の氾濫や道路冠水の現地に速やかに駆けつけ排水作業を行います。

排水ポンプ車の特徴

1. 車両には排水作業に必要な機材（排水ポンプ、発電機、ホースなど）が装備されています。
2. 排水ポンプは人力での設置・撤去が可能です。
3. 排水能力：30m³/分（直列接続時）
（小学校のプールの水を10分でカラにできる）。

※ 1m³=1000L

過去の災害における使用事例

- ・平成23年3月～4月 東日本大震災
（津波で浸水した福島県沿岸地域の排水作業に使用）
- ・平成23年9月 台風15号による大雨
（河川の増水により内水被害が発生した住宅地等の排水作業に使用）

主要諸元

導入年度	平成26年度
形式	30m ³ /分 水中モータ式
排水ポンプ仕様	形式 水中モータ駆動式 口径 200mm 吐出量 5.0m ³ /分/台 揚程 20m （直列接続時） 台数 12台
運転時間	1回の給油で約10時間



内水排水作業状況



東日本大震災での排水ポンプ排水状況

【お問い合わせは】



国土交通省

国土交通省 東北地方整備局
福島河川国道事務所 防災課
〒960-8584 福島県福島市黒岩字榎平36
Phone. 024-539-6133 FAX 024-546-4731

照 明 車

～ 災害現場を明るく照らし安全な復旧作業！ ～

照明車は、河川及び道路等に災害が発生したとき、または発生の恐れがある場合、現地での状況監視及び復旧作業時における夜間照明を行う車両です。

照明車の特徴

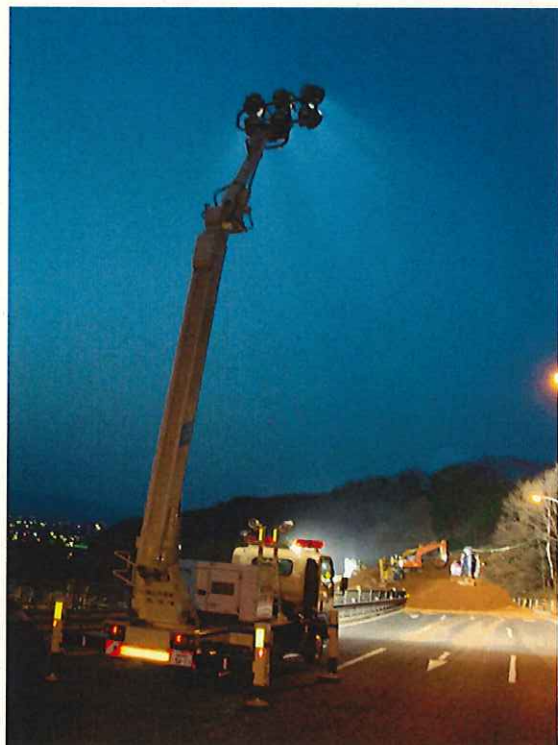
1. 使用車両は4 tトラック（4WD）で、機動性に優れています。
2. 照明灯は最大約20mの高さから監視箇所や復旧作業箇所を照らします。50m離れたところでも本が読めるくらいの明るさです。

過去の災害における使用事例

- ・平成23年3月 東日本大震災
（国道4号福島市伏拝地区での道路法面崩落における緊急復旧作業に使用）
- ・平成23年7月 新潟・福島豪雨
（国道401号南会津町浜野地区での道路法面崩落における緊急復旧作業に使用）

主要諸元

導入年度	平成11、21年度
形 式	屈折ブーム式
照 明 装 置	照明灯数 2kw×6灯 照明高さ 最大20.3m
運 転 時 間	1回の給油で約26時間



東日本大震災での照明車稼働状況
（福島県福島市伏拝地区）

【お問い合わせは】



国土交通省

国土交通省 東北地方整備局
福島河川国道事務所 防災課

〒960-8584 福島県福島市黒岩字榎平36

Phone. 024-539-6133 FAX 024-546-4731

最近の取り組み(水防災意識社会の再構築)

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「水防災意識社会再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿江市町村(109水系、730市町村)において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

<ソフト対策> 住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

<ハード対策> 「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

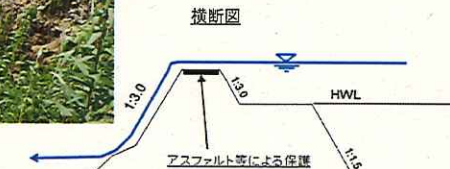
<危機管理型ハード対策>

- 越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進
いわゆる粘り強い構造の堤防の整備

<被害軽減を図るための堤防構造の工夫(対策例)>



天端のアスファルト等が、越水による侵食から堤体を保護(鳴瀬川水系吉田川、平成27年9月関東・東北豪雨)



<洪水を安全に流すためのハード対策>

- 優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施

<住民目線のソフト対策>

- 住民等の行動につながるリスク情報の周知
 - ・立ち退き避難が必要な家屋倒壊危険区域等の公表
 - ・住民のとるべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
 - ・不動産関連事業者への説明会の開催
- 事前の行動計画作成、訓練の促進
 - ・タイムラインの策定
- 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
 - ・水位計やライブカメラの設置
 - ・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供



家屋倒壊危険区域※

※ 河川堤防の決壊に伴う洪水氾濫により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域

【河川】阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会を開催しました！

平成28年4月28日
福島河川国道

1. 概要

- 阿武隈川上流で発生しうる大規模な浸水被害に備え、隣接する自治体や県、国が連携して、減災のための目標を共有し、対策を一体的かつ計画的に推進するため、**4月28日に減災対策協議会を設立しました。**
- 今後、「逃がす・防ぐ・取り戻す」ための取組を進め、防災意識向上や被害最小化を図るため、関係機関が5ヶ年で取組むべき内容を定めた「**地域の取組方針**」を8月を目標に策定します。

2. 日時／実施状況

- 日 時：平成28年4月28日(金)
- 場 所：コラッセ福島 4階多目的ホール
- 出席者：伊達市(市長)、国見町(副町長)、桑折町(総務課長)、福島市(市長)、二本松市(市民部長)、大玉村(村長)、本宮市(副市長)、郡山市(市長)、須賀川市(生活課長)、玉川村(村長)、福島气象台(次長)、県(次長)、三春ダム(所長)、摺上川ダム(所長)、福島河川国道事務所(所長)

議事内容

関係機関 約70名が参加

・(1)規約及び傍聴規定の説明

⇒異議なし、協議会設立

・(2)～(4)ビジョン、現状の水害リスク、減災目標の説明

⇒一括説明後に意見交換、出席委員からご発言



会場全景(コラッセ福島)



伊達市



国見町



桑折町



福島市



二本松市



大玉村、本宮市



郡山市



須賀川市



玉川村

3. 主な意見・コメント等

- ・今年、S61.8洪水から30年という節目の年であり、甚大な水害を振り返り、教訓を学ぶための様々な取組が重要。
- ・洪水時に頂けるホットラインは大変有り難い。国から頂いたリアルタイム情報を踏まえ、避難判断の材料としたい。
- ・住民に伝える情報は、もっと分かりやすい言葉にする必要。
- ・関東・東北豪雨のような異常降雨に対しては、施設で「防ぐ」よりは、もう「逃げる」しかないと感じた。
- ・住民に対して、的確かつ確実な指示を出すということの必要性、難しさを痛感している。
- ・出水時の防災無線整備などが必要。
- ・阿武隈川の治水は、県人口の半分を占める約130万人もの流域人口の人命に関わるという重要性を認識すべき。
- ・大規模水害時の避難は、一行政区の中で決めることには限界があり、それだけでは収まりきらない。

※昨年12月11日に発表された「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、全国の直轄河川で協議会の設置を進めています

【阿武隈川】首長を支援する緊急行動を行いました！～トップセミナー～

1. 経緯／概要

○平成27年9月に発生した関東・東北豪雨を踏まえ、阿武隈川上流沿川の市町村長を対象に、避難勧告・指示の判断等に資する情報とその対応等について周知・確認を行うトップセミナーを開催した。

2. 日時／実施状況

■開催日時

平成27年12月22日(火) 10:00～11:00

■出席者

伊達市 副市長、国見町 町長、桑折町 町長、福島市 副市長、
二本松市 市長、大玉村 村長、本宮市 市長、郡山市 市長、
須賀川市 生活環境部 部長、玉川村 村長
福島県土木部河川整備課 課長、危機管理部災害対策課 課長
国土交通省摺上川ダム管理所 所長、三春ダム管理所 所長
国土交通省福島河川国道事務所 事務所長、河川副所長 他
(計約40名)



会場の様子(福島河川国道事務所 大会議室)



伊達市



国見町



須賀川市



郡山市、本宮市



福島市



桑折町



玉川村



大玉村、二本松市

3. トップセミナーで出た意見・コメント等

- ・夜間の避難勧告等の発令は悩んだ。緊急時の対応は夜間が難しい。
- ・実際に避難指示を発令したことがあるが、水害慣れし、避難しない市民もいる。
- ・上流の雨・水位をどうみるのか、今後の状況を判断する情報をホットラインで頂けると助かる。
- ・避難場所の検討を近隣市町村と共に検討していきたい。
- ・タイムラインは日中用と夜間用が必要ではないか。

【阿武隈川】地域住民を支援する緊急行動を行いました！～共同点検～

平成27年11月
福島河川国道

1. 経緯／概要

○阿武隈川上流の堤防が決壊した場合に被害が想定される沿川8自治体を対象に、住民を避難させるための洪水情報などについて、自治会、水防団、自治体の方々と意見交換を行いました。

＜参加者数：自治会41名、水防団51名、自治体33名、合計125名＞

2. 日時／実施状況

11月20日（金）：伊達市, 二本松市



伊達市



二本松市



現地で5mスタッフ
による浸水深の確認

5m

11月24日（火）：須賀川市, 本宮市, 福島市



須賀川市



本宮市



福島市

11月25日（水）：郡山市, 国見町, 桑折町



郡山市



国見町



桑折町

3. 説明内容

○関東・東北豪雨被害事例、教訓の共有
○洪水被害を軽減するために、今できること、今からやっておける最低必要なことの確認等



浸水想定区域



地上デジタルTV放送



河川巡視のポイント

4. 意見交換会での主な質疑・意見等

- ・国、県、自治体の連携が重要。
- ・豪雨時には、防災無線は聞こえない。
- ・防災無線のサイレンと電話音声ガイドで内容が確認できるようにしている。
- ・各戸に防災放送受信機を配備している。
- ・9月洪水以降、首長から空振りをおそれずに避難情報を出そうと言われている。
- ・避難勧告等を出しても住民が避難しないこと、要配慮者の避難をどうするか課題。
- ・自主防災組織の会議等で今回のような説明をお願いしたい。

梁川地区



▲梁川町＝広瀬橋の洪水状況



▲梁川町＝広瀬橋の洪水状況



▲梁川町＝広瀬橋の洪水状況



▲広瀬川合流点の氾濫状況 (梁川町)



▲広瀬川合流点の氾濫状況 (梁川町)

▼泥水に沈む堤防脇の畜舎 (梁川町)



▲家屋の浸水状況(梁川町)



▲広瀬付近浸水状況(梁川町右城町交差点から広瀬橋を見る)



▲堤防脇の工場も浸水(梁川町)



▲広瀬橋付近の浸水状況(梁川町)



▲道路を流れおちる濁流(梁川町)



▲濁流に水没した樋管(梁川町)



▲伊達橋付近の洪水状況(伊達町)



▶市街地区川も同然(梁川町)



▶阿武隈川本川右岸の浸水状況(伊達町)



▲阿武隈川本川洪水状況(伊達橋)



▲越流寸前の特殊堤(梁川町鶴ヶ岡橋より広瀬川下流を望む)



▲広瀬川特殊堤の越流状況(梁川町)



▲あ、あぶない！決壊寸前の町裏堤防の越流(梁川町町裏)



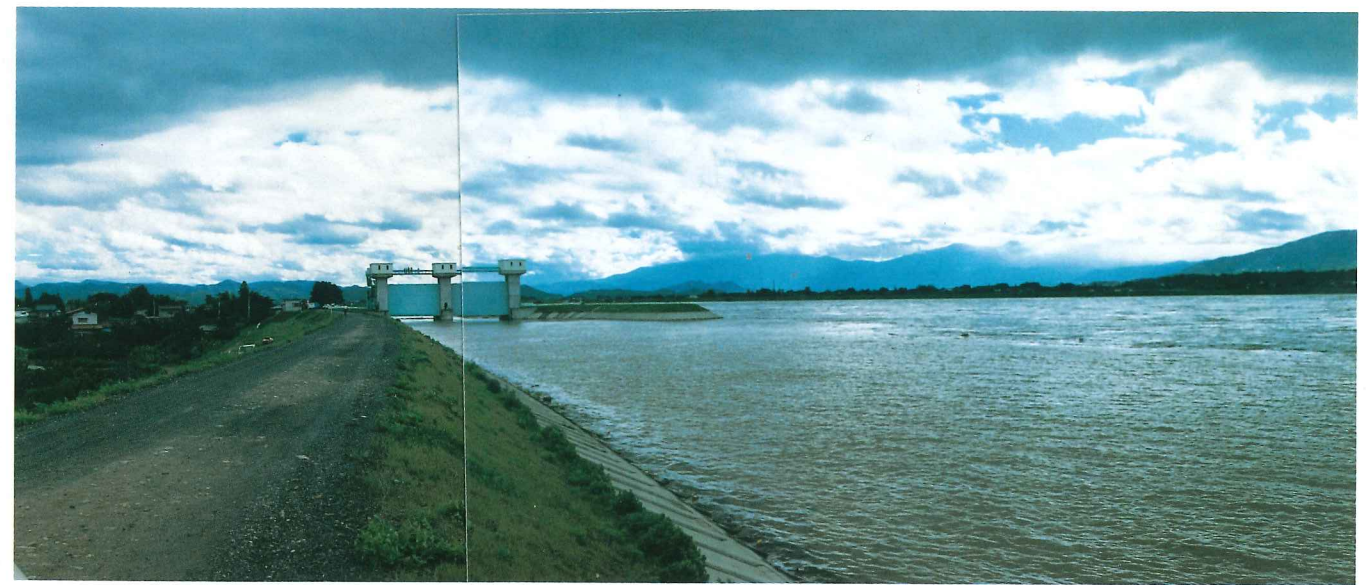
◀出水状況を不安気に見守る住民(梁川町)



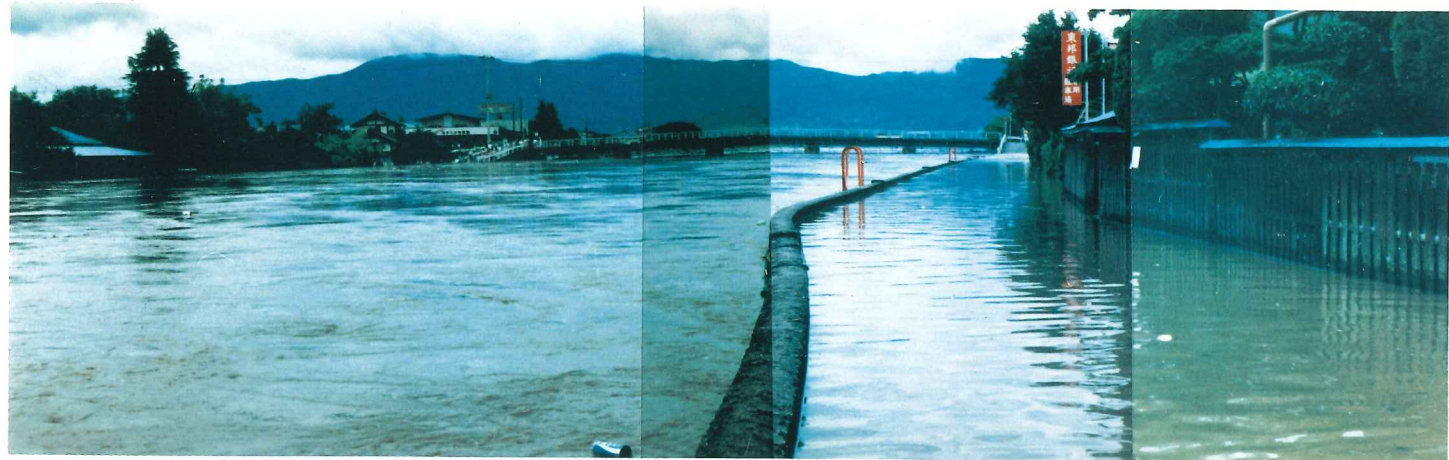
▲道路も川と化す(梁川町)



◀阿武隈川本川右岸の越流状況(梁川橋より上流)



▲東根川合流点付近の洪水状況(梁川町)



▲広瀬川右岸特殊堤の浸水状況



◀広瀬川左岸特殊堤の越流状況



▲伝樋川左岸、桐木橋下流の越流状況



▲完全に冠水した広瀬橋(梁川町)



▲道路も冠水(梁川町)



▲雨の中、住民総出で水防活動(梁川町)



▲船で避難する梁川町柴崎地内の住民



▲国保病院の移動救護班、梁川町(農協会館)



▲阿武隈川を下る激流（福島市蓬萊橋）



▲阿武隈川を下る激流（福島市蓬萊橋）



▲ボートで自衛隊に救助される住民（福島市南町）



▲避難状況を見守る（福島市南町）





▲首まで水につかりながら必死の救助活動（福島市南町）



▲状況把握にあたる職員

▶グラウンドも水びたし
（福島市立第三中学校）



▲雨がうらめしい（福島市南町で）



▲泥水に没む車と住宅（福島市下荒子）



▲荒川合流点附近の浸水状況（福島市南町）



▲福島市県庁裏附近



▲洪水の引いた大仏橋と松齢橋



▲福島市大仏橋(左)と松齢橋(右)



▲1階は完全に水没した家屋 (福島市南町)



▲1階は完全に水没した家屋 (福島市南町)



▲屋並をいくボート (福島市南町)



▲屋根を残して水没する自動車 (福島市南町)



▲県庁裏より天神橋を望む



▲道路も決壊 (福島市小倉寺国道114号)



▲本流に削りとられた114号 (福島市小倉寺)



▲県庁裏もみじ山公園の浸水状況



▲ボートで救助される住民（福島市南町）



▲停電により信号機もとまる（福島市南町）



▲ボートで救助される住民（福島市南町）



▲次々に救助される被災者（福島市南町）

本宮地区



▲ 安達太良川、本宮橋の隘水状況 (本宮町)



▲ 安達太良川、本宮橋の隘水状況 (本宮町)



▲ 安達太良川、本宮橋の隘水状況 (本宮町)



▲ 安達太良川、本宮橋の隘水状況 (本宮町)



▲ 安達太良川、本宮橋の隘水状況 (本宮町)



▲安達太良川の出水状況（本宮町）

▶阿武隈川本川の出水状況



▲昭代橋より阿武隈川下流を望む



▲ボートで救助に向う（本宮町）

▼ボートで救助に向う（本宮町）



▲ボートで避難する本宮町住民



▲ボートで避難する本宮町住民



▲役場内移動もボートを使って（本宮町役場）



◀水路と化した街中の道路（本宮町）



▶泥水の中、置き去りにされた車（本宮町）



▲市街地も軒下近くまで水没（本宮町）



▲駐車場も水びたし（本宮町役場庁舎2階から）



▲泥水に浮ぶ門柱（本宮町）



▲街中も川同然（本宮町）



▲街中を流れる泥流（本宮町）



▲とにかく疲れました



▲ 2階からロープをつたってボートにのる被災者（本宮町で）



▲ 水面に浮ぶ建物（本宮町）